

発刊によせて

水野 尚志

芸北町教育委員会教育長（高原の自然史編集委員会委員長）

Introduction to : "Natural History of Nishi-Chugoku Mountains"

Takashi MIZUNO

Superintendent, the Geihoku-cho Board of Education, Geihoku-cho 731-23

Abstract: I have no words to express my great pleasure in having the opportunity to publish this research report of Geihoku Kogen Museum, "Natural History of Nishi-Chugoku Mountains".

Geihoku-cho, located in the middle of Nishi-Chugoku mountains, has drawn the attention of a large number of people as a "Treasury of Nature". In recent years, however, this precious natural area has deteriorated through development and changes of lifestyles. Under these circumstances, the Geihoku-cho Board of Education carried out research on the natural history of the Nishi-Chugoku mountains. This investigation was conducted over a period of 3 years starting in 1991. At the beginning, in 1991, 6 subjects of study were selected: seed plants, mammals, birds, freshwater animals, insects and geology. Here in this volume you will see the result of our 3-year research. Publication of this report does not signify the end of our activities, and I desire that not only the authors of these reports but also other scientists may become involved in research activities and have the opportunity to publish their works in a continued series of "Natural History of Nishi-Chugoku Mountains"

In closing, I would like to express my sincere thankfulness to those who contributed to the preparation of this volume through research, editing and compiling.

ここに、芸北高原ミュージアム研究報告「高原の自然史」：Natural History of Nishi-Chugoku Mountains を発刊できる運びになり喜びにたえません。本誌の発刊にいたるまでの経緯をたどり、ごあいさつを申し上げます。

西中国山地の真只中にある芸北町は、「自然の宝庫」だとか「まだ自然が残っている」といわれ、色々な意味で多くの人々の関心を集めています。しかしながら、近年富みに芸北町の自然が姿を消しつつあります。それは、ただ開発が進むということだけではなく、生活様式の変化とともに山の草刈がなくなったり、山野の草花や生き物が盗掘されたりする中での減少傾向をいうわけです。こうした状態に歯止めをかけるためには、私たち町民が芸北の自然のすばらしさと重要性を認識しなければならないと考えました。そこで、芸北町教育委員会では、1991年度（平成3年度）から芸北町を中心とする西中国山地の自然について具体的に調査して、町民のみなさんに貴重なことを知っていただくとう「芸北町自然学術調査」を実施することにしました。

芸北町を中心とする西中国山地の自然について調査研究をしたものは、1959年（昭和34年）に広島県教

育委員会が発刊した「三段峡と八幡高原」という総合学術調査報告書しか見当たりません。現在の状況も1959年当時とはかなり違っていると思われまます。こうしたことから、1991年度から3年間をかけて、芸北町を中心に種子植物、哺乳類、鳥類、水棲動物、昆虫類、地質の6部門について調査をすることにしました。

幸いに、芸北町には以前から芸北の自然を愛し、深い関心をよせていただいていた各分野の専門家の先生が町の内外に沢山おられたので、ともかくこの先生方に主旨を理解いただいて調査をスタートすることといたしました。

調査スタート時の学術調査員の方は、次の方々でした。

足利 和英	広島市安佐動物公園	哺乳類
上野 吉雄	広島県立広島北養護学校	鳥類
桑原 良敏	広島女学院大学	昆虫類
児玉 集	元芸北町文化財保護審議会委員	植物
斎藤 邦男	元芸北町教育委員	地質・岩石
斎藤 隆登	広島市立口田東小学校	植物
谷出 忠志	芸北町猟友会	哺乳類
内藤 順一	広島県立広島観音高等学校	水棲動物
宮川 和夫	昆虫研究家	昆虫類
渡部 泰明	元加計町教育委員会	地質・岩石

上記の方々の個人的あるいは学会を通じてのネットワークもあり、調査開始後少しずつこの調査にかかわってくださる人もふえて、次の方々も多大の協力をしていただきました。

安部 哲人	中外テクノス株式会社	湿原
井田 秀行	広島大学大学院	ブナ林
暮町 昌保	広島市立高南小学校	植物
桑原 一司	広島市安佐動物公園	哺乳類
相良伊知郎	広島県林務部	ガ類
田丸 豊生	広島市立原小学校	植物
田村 龍弘	太田川漁業協同組合	魚類
中越 信和	広島大学総合科学部	植生
平岡喜代典	広島県環境保健協会	陸貝
保井 浩	日本ユニシス株式会社	鳥類
山本 裕	日本野鳥の会	鳥類

各年度毎に調査の報告書を作成し、各部門毎に標本・資料の収集、写真撮影などを行って貴重な財産が蓄えられ、これらは現在芸北町教育委員会に保管されております。

また、この学術調査と並行して調査員の先生方を講師にお願いし、公民館活動の中で、初心者にも良くわかる「芸北の自然を知る講座」を開催して、毎年継続して今日に到っております。この講座には、町内はもちろん、遠く広島市内からの受講者もあり、いかに芸北町の自然について関心があるのかが証明された感がしました。また、自然についての知識が身に付くことは当然のことながら、都市の人と芸北の人と

の交流の場になったという面でのメリットは大きなものがあったと思います。このようにして、改めて芸北の自然を見直そうという動きが少しずつ裾野を広げてきたことは、何にもまして嬉しいことです。

このような中で、芸北町にこのすばらしい自然資源を生かした町づくり、いわゆる「全町自然博物館」構想が浮上してきました。西中国山地のヘソともいべき芸北町全域が自然博物館であるという考え方で、これの拠点となる施設を作る。これが「芸北高原ミュージアム構想」であり、将来への大きな夢となりました。

芸北町を中心とする西中国山地の自然が紹介でき、学習や研究ができて、その上多くの人々が自然の中で交流できるならどんなにすばしいか。これこそ自然を生かした町づくりであり、町の活性化につながるわけです。

そんなことから、芸北町では平成6年度に「芸北高原ミュージアム準備委員会」を発足させ、併せて「芸北高原ミュージアム基本構想」の策定に着手しました。準備委員会のメンバーは次のとおりです。

上野 吉雄	広島県立広島北養護学校
桑原 良敏	広島女学院大学
斎藤 邦男	元芸北町教育委員
三枝 健二	広島県埋蔵文化財調査センター
寿老長吉郎	芸北町役場総務課
武永 慎雄	広島市在住 洋画家
内藤 順一	広島県立広島観音高等学校
中越 信和	広島大学総合科学部
宮川 和夫	広島市在住 昆虫研究家

芸北町教育委員会が実施する調査は3年間で区切りをつけたとはいうものの、西中国山地の自然はあまりにも広大で、調査することはまだまだ山ほどあります。今後も調査研究を継続していこうという調査員の先生たちの熱意から、「西中国山地自然史研究会」という自主的な会が平成6年度に発足し、会報「苜尾」の機関誌の発行をみるにいたりしました。芸北町の貴重な動植物の紹介や自然保護の啓発に大きな役割を果たしていただいております。

このようにして、調査されたものは各年度毎に報告書にはなっておりますが、今回それら各部門のなかで湿原、植物、陸・淡水貝、カワシンジュガイ、ガ、チョウ、淡水魚、両生類、爬虫類、鳥及び哺乳類について、今までの調査を総合的に整理し、ここに本誌「高原の自然史」の発刊となりました。今後は継続して芸北町を中心とする西中国山地の自然について調査研究されたことを、この研究紀要の上に発表していただければと考えています。

またこの発刊主体も、上述したように是非とも「芸北高原ミュージアム」建設の夢を実現するためと、博物館を単なる標本の展示館とするだけでなく、不断の調査研究に本義をおくという考え方の上から、「芸北高原ミュージアム設立準備室」を芸北町教育委員会の中に設置し、本誌編集委員会の事務局もこの準備室内におくこととしました。

本誌が、芸北の自然のより深い理解のためと、より適切な自然保護や活用の情報源として、また自然研究の資料としてご利用いただけるならこの上ない幸せです。

最後に、学術調査に尽力いただいた方々、本誌の執筆、編集、出版などにお力をかしていただいた皆様に心からお礼を申し上げ、あいさついたします。